

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	外部評価の調査時に、理念を見直し行い、新たな理念を作成し掲げているが、その理念の内容をもう少し掘り下げ「家庭的な雰囲気とは？ きめ細やかなとは？ 寄り添うとは？」皆でもう一度再確認する為、具体的な内容や方法を考え意識統一を図る必要性がある。	チームの一員として、理念の意味を皆で再確認し情報を共有し合い、利用者様の思いをくみ取りながら安全と安心に繋がり、その人らしく穏やかな日常生活が送れる様援助して行く。	家庭的な雰囲気とは？ きめ細やかな？ 寄り添う？それぞれの項目ごとに個々に具体的な内容や方法を提出してもらい、9月の会議で皆で話し合いそれを10月の会議まで文章化でまとめ今後の対応を、改めて理念を念頭に置きながら援助に繋げて行く。	2ヶ月
2	28	前回の外部評価で目標達成計画に取り上げた、地域との避難訓練が今だ実施されていない。しかしその前に今年度は地区の区長(1区・2区)さんに施設における災害時に備え、緊急連絡網の一覧に載せることに承諾頂く。今後地区の一員として更に地域密着に努め歩み寄る必要がある。	来年度は地区の一員とし区費を納入行い、地域資源を把握しながら活用し、地域密着にて支えて頂き協力できる様アピールして行きたい。	地区に働きかけ区費を納入する。回覧板を回して頂き、地区の一員として周囲環境の状況や地区行事など把握し、可能な限り協力体制を築いて行く。	7ヶ月
3	34	以前、「ここを強く押す」と書いてあり「押ししました」と、夜間利用者様に非常ベルを押されてしまい、復旧に手間どった経験がある。その頃より職員も部所変更や新たな入職等により、再確認の必要がある。次回の災害訓練時、誤作動による非常ベルの復旧方法を周知したい。	非常ベルの誤作動時は、自動通報設備の対応と非常ベルの停止及び復旧操作をほぼ全職員が出来る。	次回の災害訓練時は、自動通報装置の対応と非常ベルの停止及び復旧方法を消防署と庄内防災の職員より指導して頂く。	3ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。